

第2回中部圏長期ビジョン検討会 議事録

日時 令和3年7月5日(月) 16:00～17:35

場所 KKRホテル名古屋4階 福寿の間 (Web参加を含む)

1. 開会

○司会 (林企画部長)

定刻となりましたので、ただいまから第2回中部圏長期ビジョン検討会を始めさせていただきます。本日は大変お忙しい中、お集りいただきありがとうございます。

本日は、両局長出席の予定でしたが、災害対応がございまして、今回はやむを得ず欠席という形で進めさせていただきます。

会に先立ちまして、奥野座長よりご挨拶をお願いいたします。

○奥野座長

大変お忙しい中、ご出席を賜りありがとうございます。

前回いただきましたご意見をベースにして、事務局にて資料をまとめいただいておりますが、今日はこれに基づいて、さらに議論を進めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

○司会 (林企画部長)

ご出席の委員のご紹介ですが、議事の進行上、配布しております出席者名簿及び、配席図にてご紹介に代えさせていただきます。

なお、トヨタ自動車(株)総務部長 朽木委員及び、名古屋大学未来社会創造機構教授 森川委員についてはWebによる参加となっております。

また、鈴鹿市長 末松委員及び、(株)美ら地球代表取締役 山田委員につきましては、ご都合により、遅れてWebでの参加となっております。

また、(株)エムスクエア・ラボ代表取締役 加藤委員及び、愛知ドビー(株)代表取締役社長 土方委員につきましては、ご都合により今回は欠席ということでございます。

配布資料の確認をさせていただきます。不足等ございましたら、事務局までお申しつけください。

・配布資料一式について確認

会議中はWeb画面及びスクリーンで資料共有をさせていただきますので、参考にいただければと思います。

会場の机の上にはドッチファイルにて第1回の資料を参考までに置いてございますので、必要な際にご覧いただければと思います。なお、ドッチファイルにつきましては、次回の検討会でも使用しますので、お持ち帰りにならず、机の上に置いたままをお願いします。

報道関係の皆様にお知らせします。撮影についてはここまでとさせていただきます。これ以降は、会場に用意してあります記者席でお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきますので、ここからの進行は奥野座長にお願いいたします。

2. 議事

○奥野座長

次第に従って進めてまいりたいと思います。

はじめに、議事（１）中部圏の課題に対応した取り組みの紹介とあります。第１回の検討会で、スタートアップ、カーボンニュートラルに関する意見が多くありましたので、中部経済連合会における取り組み、中部地方整備局におけるカーボンニュートラルにおける取り組みの説明を最初にしていただこうと思っております。

はじめに、中部圏の地域力の持続的向上に向けてということで、中部経済連合会企画部長大槻様よりお願いいたします。

○中部経済連合会 大槻氏

・資料１－１、参考資料４説明

○奥野座長

ありがとうございました。後ほど、皆さん方のご発言の中で質問等出てまいりましたら、その時にはよろしくお願いいたします。

○奥野座長

続きまして、名古屋港におけるカーボンニュートラルポート（CNP）の取り組みにつきまして、中部地方整備局港湾空港部 寺園様よりお願いいたします。

○中部地方整備局 寺園氏

・資料１－２説明

○奥野座長

ありがとうございました。寺園さんへの質問につきましては、先ほどの大槻さんと同じく後ほどの発言の中で合わせていただければと思います。

○奥野座長

それでは、次の議事に移ります。

（２）第１回検討会の主なご意見、（３）中部圏のあり方や将来像の方向性の説明、これを続けて事務局から説明をお願いして、皆さんからの意見をお願いしたいと思います。

○事務局（加納事業調整官）

・資料２－１、資料２－２、資料３説明

○奥野座長

ありがとうございました。

今、説明がありましたように、皆様の前回の発言を資料2-1に詳しく書かれておりますが、その項目だけを拾ったのが資料3です。これらを参考にしながらご発言をいただければと思います。

先ほどの資料2-2の地域参加型の取り組み事例なども、道の駅なんかは、随分色々な使われ方をするようになりましたね。驚くほどです。特に最近では、道の駅の近くにホテルができるなど、滞在型の施設の一部として使われることも出てきているようです。

皆様のご発言をいただきたいと思いますが、時間の関係もごございますので、お1人、4分ぐらいを目途にお願いできますでしょうか。

まず、内田委員をお願いします。

○内田委員

まず、目指すべき方向性ですが、「QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上」ということで、このあたりが中部圏の強みだと思いますが、QOLという表現を使ったのは良いと思いました。

いわゆる、ワーク・ライフ・バランスの面で言うと、三大都市圏でも非常に高いレベルにあると思うのですが、特にワークの質の部分においては、例えば、クリエイティブな仕事不足している、量的な採用数が圧倒的に少ない、起業が少ないなどの課題が残されており、おそらくそうした質・量、水準等も含め、あえてワーク・ライフ・バランスではなく、QOLという表現にしたのかなと捉えています。

また、スタートアップも意識して、女性、若者、シニア層、外国人等を入れていただいているのも良いと思います。そうした人材を誘引する場合、広い意味では「自然、文化、芸術等」というところに入っているかもしれませんが、生活や仕事を楽しくするという面で、例えば、スタートアップが集中する渋谷のようなチャレンジできる街に近づけるような、現在の堅実性や安定性とは対極にある文化面も強調していただければと思います。

2点目の、ネットワーク、地域間の連携のところでは、コンパクト化による賑わいやウォークアブルな将来的なまちづくりの前提として、高速道路やモビリティも含めたシームレスな交通ネットワークの構築があって、その中の一つの要素としてウォークアブルなまちづくりも機能すると思いますので、そのような視点も盛り込めるようでしたら検討いただきたいと思います。

スーパー・メガリージョンと多極分散型国土の形成はセットで考えていくということになると思いますが、この部分で若干気になったのは、左側の目指すべき将来像のところに「ネットワーク」があり、右側の具体的なプロジェクト案の最後にも「ネットワーク」という項目がありますので、それぞれ左右で関係性があるかと思いますが、多少文言の表現は変えた方が自然なのかなと思います。

具体的な関係性でみると、右側の具体的なプロジェクト案のうち、例えば、防災はQOLの向上にも関連しますしネットワークや地域間の連携とも関連しています。スタートアップやカーボンニュートラルなどもそれぞれ関係性は把握できますが、ネットワークだけ直接的で同じワードになっていますので、例えば、右側を「交流ネットワーク基盤の強化または整備」とか、少し別の表現を考えるといただければと思います。

最後の観光のところは、足元ではインバウンドが激減していますが、アフターコロナに向けた中部圏の姿としては、極めて重要な集客戦略になってきますので、中部の昇龍道としてのターゲットイングやブランディングの強化や見直しまで視野に入れた方向性を打ち出していきたいと思います。

ポストコロナの時代には同時にSDGsという視点も重要になりますが、スタートアップもエコシステムの形成ですしカーボンニュートラルもそうなのですが、交流圏という側面に加えて、域内循環型や独立経済圏という面も強化していく必要があるのかなと思います。以上です。

○奥野座長

あとで時間が残りましたら、ご発言をいただければと思います。事務局からは最後に総括的なリプライをお願いいたします。途中で、具体的な質問がありましたら、その時にまた対応をお願いいたします。次に小川委員、お願いいたします。

○小川委員

最初の QOL の向上のところからお話しますと、ここにあげられている項目に共通しているのは多様性ということではないかと思えます。

生活の中で、文化・芸術とかいろいろな多様な楽しみがある地域になっていることが大事ですとか、女性、高齢者等、多様な人たちがいることが大事だとか、都市だけではなく中山間地でも自由に住めるなど、多様な生活の場があるところとか、最後は、ライフスタイルも多様であるということだと思えます。

中部地方で気になる多様性の欠如については、圧倒的に女性の活躍です。以前調べた数字なので、少し古いかもしれないのですが、この地域の政治リーダーシップを取る人達が誰かという数字を見ますと、県会議員、市区町村会議員の女性比率が中部4県では8%ぐらいだったのですね。東京4都県、大阪4府県だと、大体20%ぐらいの数字になっていて、中部4県は東京の半分にも満たない数字にとどまっています。

また、民間企業の社長に占める女性の比率も調べたことがあるのですが、東京や大阪は10%に届きそうな数字なのですが、中部は5%ぐらいで、これも半分ぐらいしかありません。東京や大阪に比べて中部地方は、通勤が楽だし、子育てと住環境も良く、女性にとって住みやすいところにも関わらず、女性が活躍できていません。これが、政策のゆがみにもつながっているのではないかという研究も海外事例で勉強したりもしました。例えば、もし、女性の議員や公務員の管理職比率が高ければ高いほど、女性や若者向けの政策に支出が配分されるということがあります。このあたりは、中部地方は非常に改善の余地があって、それをうまく改善すれば、QOLが高まる可能性のあるポイントだと思っています。

2つ目のネットワークですが、これも多様性と絡めて考えたいところで、すごく大事な視点だと思います。同じような地域をネットワークでつないでも全く意味がないですね。自分とは違う、自分のところを補完してくれるような多様な地域とネットワーク化することで、初めてネットワークの意味が出てくると思いますので、各地域が、自分のところは何が得意で、何を打ち出しているのかということを考えて、それをブランディングして、表に出していくことをしていただきたいし、行政はそれを後押ししていただきたいと思えます。

こういう問題を考えた時に、福袋を思い出します。福袋の中に全く同じものしか入っていないと分かっていると、誰もその福袋を買わないと思うのですが、福袋の中に色んな雑多なものが入っていて、何が入っているかよくわからないという意味で中身が多様だと、買おうかなという気が起きると思えます。

コロナ後のインバウンドを考えた場合でも、中部地方が1つの福袋だとすれば、いろいろな特色を持った、小さな地域がポツポツたくさんあるということが理想的だと思っています。中部地方のそれぞれの地域の多様性が維持されて、増していくことを期待したいと思います。

左の列で、足りないかな、欠けているかなと思った視点として、今日の中経連様の発表とも関連しますが、イノベーションです。そのワードがどこかにあった方が良いのではないかと思えました。

この地域は産業が強くて、これまで産業の力の恩恵をすごく受けてきたと思うのですが、カーボンニ

ュートラル、E V、デジタル化等で、産業の在り方が変わっていくときに、30年後のこの地域の産業は大丈夫かという不安が付きまといまいますので、中部の産業地域 2.0 のような、何か新しいビジネスモデルを作り上げるようなイノベーションがあると、明るい未来につながると思います。

イノベーションは企業だけではなく、地域でも小さなイノベーションが起こせるので、中部地方でそういったものがたくさん出てくれば、外から見て魅力的な地域に映るのではないかと思います。

○奥野座長

ありがとうございました。女性の進出は、大学の方は進んでいますか？

○小川委員

大学では恥ずかしながら、私が今所属しているところだと、教員は2割ですね。学生は随分増えましたけれども。

○奥野座長

学生は、女性が増えているけれども、教員の方はまだなかなかなのですね。ありがとうございました。続いては Web からですが、朽木委員お願いいたします。

○朽木委員

目指すべき将来像のところですが、QOL の観点、ネットワークの観点、いずれも様々な社会課題に対して、取り組みが明示されていて、非常にわかりやすい内容になっていると率直に感じました。

将来像を描く上で欠かせないのが移動です。我々はモビリティの会社ですので、移動という観点が非常に重要だと思っております。

移動も最近では色々な社会課題がございまして、都市部での渋滞はもちろんですが、高齢者の事故や、高齢化によって農村部での移動が困難な方も増加しています。こういった観点を踏まえて、色々と対策を打っていかねばいけないと思っています。

弊社では、2018年にソフトバンクさんと連携をしまして、「MONET Technologies」という会社を設立しました。バスやタクシーなどの移動手段をつなげていくネットワークのビジネスですので、こういった観点での対策もしっかりと打っていかねばと思っております。

いずれにしても、個社でこういった活動に取り組むのではなく、色々な地域や事業が連携することによって、新たな価値が創出されていくと思っていますので、目指すべき将来像の中でも移動という観点と、新たな価値を創出していくという観点が非常に重要だと感じました。

2つ目の将来像の実現に向けたところですが、カーボンニュートラルの項目がテーマとして追加されていると非常にありがたいといえますか、良いことだと率直に感じました。

これも、2020年3月に、中部圏水素利用協議会というところに弊社も参加させていただきまして、中部圏における水素の大規模実装とサプライチェーンの構築の検討を始めています。こういったところとも連携させていただきながら取り組みができれば良いと感じました。

○奥野座長

ありがとうございました。続きまして、榊原委員お願いいたします。

○榊原委員

目指すべき将来像は、非常にきれいに整理されていると思います。QOL の向上とネットワークと2つに分けたのは、率直に言って腹落ちがします。

1点コメントすると、QOL のところで、住むことと、訪れることがメインになっているのですが、この地域では、働くことも非常に重要なキーワードだと思っています。とりわけ、スタートアップの観点からも、人を惹きつけるというようなもの、イノベーションも含めて、働くことの価値をきちんと入れたくて、自分で勝手に考えていたのは、「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」といったような、キャッチーな言葉を1つ入れても魅力的なのかなと思います。

資料3の右側の具体的なプロジェクトのところも、非常に腹落ちしたのが、防災の観点をバシッと入れてくれているところで、やはりこの地域で防災を全面に出してしっかりやっていくということが、企業を誘致する場合にも非常に重要なところだと思うので、これがしっかり入っているのは心強いです。

カーボンニュートラルについて言えば、名古屋港カーボンニュートラルポート形成という国交省の取り組みが代表プロジェクトとして入っており、これを軸にカーボンニュートラルをしっかり引っ張っていくという方針がよくわかる形になっていると思います。付け加えると、これを実現するためには、水素、アンモニアといった、可燃物、劇物を大量に輸送し貯蔵する必要があることから、先に上げたような安全面、防災面の考慮が必要となりますが、このあたりをしっかりと位置づけて書いていただいているのは重要な点だと思います。

1点だけお願いしたいのが、弊社事由というわけでもないのですが、JERA がアンモニアの混焼を予定している碧南石炭火力発電所や、当該技術の将来的な展開が期待できる武豊石炭火力発電所は、名古屋港ではなくて衣浦港に位置しています。名古屋港カーボンニュートラルポート形成を軸に脱炭素の議論を展開していくのはとても合理的だと思いますが、実態として、衣浦港を含む近隣の港湾との関係性というものをしっかりと謳っていただけるとより現実的になり、この地域の皆さんにもよくわかる内容になると思います。

○奥野座長

ありがとうございました。続きまして、鈴鹿市長 末松委員、よろしくお願いします。

○末松委員

途中参加で最初の説明が聞けていないので、少し観点が違うかもしれませんがお許しください。

中部圏の在り方、将来像の方向性で、目指すべき将来像のところは、今、皆様方にお話をいただいたところと同様です。

1つ、先ほど、働くことの価値というお話もありましたが、是非、そのようなところも行政側としては取り入れていただきたいと思えますし、もう1つ、女性や若者が共生できるまちというところはあるのですが、子供という観点も追加していただきたいです。

前回の議論の中でも、少子高齢化、人口減少する中で、子供をどのように育てていくとか、若い女性が働くには子供の環境の整備も必要になってくるのではないかという話があったと思いますので、文言として入れていただけるとありがたいと思います。

2つ目のところですが、学ぶ、あるいは研究する若者という中では、どちらかというと私たちの地域から愛知県へ流れていくことが多いのですが、中部圏全体として、学官連携と言いますか、学術の部分についても、もう少しどこかに明記があれば、若者の環境の部分において、中部のものづくりで

あったり、学官連携が盛んであったりというところで、活躍できる部分にできるのではないかなと思いました。

両方に関連して、SDGs ということがこれからは大きな目標になってくると思いますので、この部分では、カーボンニュートラルという話はあるのですが、大きな観点での SDGs がもう少し見えるように入れ込んでいく必要性はあると感じました。

○奥野座長

ありがとうございました。子供のことは非常に大事だと私も思います。

これからの地域のまちづくりにおいて、高齢者に優しく、子どもが生まれ、育まれるまちという視点は入れていただきたいと思います。

戸田委員お願いいたします。

○戸田委員

3点、意見を申し上げます。

目指すべき将来像のところ、QOL の向上、ネットワークに加えて、先ほど小川委員からもご意見があったのですが、この地域の産業、土地利用などの多様性、あるいは女性の活躍する社会などを含めた、ダイバーシティ&インクルージョンという視点を、柱として打ち出していても良いのではないかなと思いました。東京圏、大阪圏と違って、中部圏の魅力を積極的にアピールしていく観点では、多様性と、それらの総体として、地域が活躍・成長していくというインクルージョンという視点が大事だと思った、というのが1点目の意見です。

2点目は、私の個人的な受け取り方かもしれないのですが、目指すべき将来像のネットワークという言葉には、少しハード的なネットワークにイメージが直結するように感じるころがあって、もう少し今後のデジタル化を前提とした新しい形のネットワークみたいなものをイメージし、何をつなぐのかという視点、例えば豊かさや賑わいのネットワークといった観点で、ネットワークそのものの在り方が、今後、モビリティも変化していく中で変わっていくことも含んだ表現にしてはどうかと思いました。

3点目は、将来像の実現に向けてですが、防災、スタートアップ、観光、ネットワーク、いずれのところにも、地域づくり、まちづくりといったキーワードが入っているのですが、地域のデザインをどうするかということがまずあって、魅力的な地域のデザインのもと、防災、スタートアップ、あるいは観光というものがつながれていることが大事だと思います。地域デザインがサブの項目として表れるというよりは、大項目として地域デザインがあり、その集合体として、中部圏域のデザインというものにつながっていくのではないかなと思いました。

○奥野座長

ありがとうございました。次、豊田委員の順番ですが、山田委員が退出されなければいけないということなので、ここでご発言いただけますでしょうか。よろしく願いいたします。

○山田委員

他の会議が入っている時間のため、スポット参加で申し訳ありません。他の委員の方のご発言を把握しきれていないので、重複するところもあるかもしれませんが、気づいた点や要望について、お話しさせていただきます。いただければと思います。

資料3の内容を見て思った率直な意見は、中部圏だからこそその観点が、この大上段だとそこまで出ないという話なのかもしれませんが、東北地方、中国地方、九州地方でも同じようなことが掲げられるのではないのでしょうか。中部だからこういうところを目指そう！という部分があり見えていないように思います。他地域がこうだけど、中部はこういう強み、こういう特徴を持っているから、そこを伸ばそう！という観点が、今の段階では見えきれていないと思います。

先ほど、SDGs といった言葉も出ていましたが、将来像のところの言葉が、なんとなく網羅感というかバランスに抜け落ちがあるような感覚を受けますので、SDGs とか、世界でも使われているような枠組みを使って整理をしていくと分かりやすいと思います。その枠組みを使いつつ、中部圏の特徴、強みのようなところが盛り込まれてくると、確かに中部はそういうところだから、こういう姿を目指していきたいんだよね、となるのではないかと思います。

2番目の将来像の方でも、具体的なプロジェクトの案の中で書かれている内容で、例えば、観光分野とか地方分野といった関連で観光を見ると、世界的にいう関係人口は、もはやいわゆる観光客みたいなところではないということがグローバルにも言われています。

そういった世界の潮流や、単なる観光客ではなくて、また、その地域の経済的なものだけではなくて、ポジティブな貢献をしてくれる人たちとどうつながっているかという点が、今後求められているということは周知の事実なので、そこを含め、今、持続可能な観光がUNWTO等、世界中でも言われているように、せっかく改めて将来像を描いて、具体的なプロジェクトを書き添えるという将来的な話をここで議論するのであれば、先々を見据えた世界のホットトピックスみたいなものがうまく入ってきて、その中で、中部エリアで実現していこう、これだったら確かに実現し得るよねというような構成になっていけばいいなと期待します。

漠然とした話になってしまっているかもしれませんが、今回将来像として、そこに向けた道のりということなので、資料3に関して私自身が気づいたこと、検討の期待という意味で発言させていただきました。

○奥野座長

お忙しいところありがとうございました。続きまして、豊田委員お願いいたします。

○豊田委員

愛知県の常滑の生まれです。日本六古窯といって、焼き物が有名なところなのですが、自分自身を振りかえってみても、歴史があるということは、自分の人間形成に影響していると感じます。

QOLの部分で、まさに生活を楽しくする、自然・文化のところに、歴史があっても良いのではと思いました。特にこの地方は、三英傑、戦国武将など、いわゆる江戸期なんかは、循環型社会ということもよく言われますし、志段味には古墳等もありますので、歴史の視点もあると良いのかなと思います。

今年の1月、三の丸の再整備を掲げた、名古屋三の丸ルネサンス期成会が設立して、メンバーを見ると、奥野座長が代表で、森川委員も、名商、中経連も入られていて、三の丸を再整備しましょうということで、1つの核として良い話だと思ったので、感銘を受けました。

2つ目ですが、将来像の実現に向けての部分で、防災の視点がありますが、備えるというよりも、巨大地震はいつか必ずくるので、そこからどう復興するかという視点をいかに盛り込んでいくかだと思います。流域治水プロジェクトという関連施策ができましたが、基本的にはあらゆることをするしかないということなのですが、1つの考え方としては、待つのではなく、危険な地域からいかに先に引っ越す

か、危険な場所があったとしたら、そこからどう移すか、これはまちづくりという意味では非常に難しいですし、熱海の土石流もそうで、危険だとある程度分かっている、なかなか引っ越せないとは思いますが、1つのモデル的なケースとして、災害前から先手を打ったまちづくりという視点もあっても良いのかなと思いました。

3つ目の視点で、ナゴヤイノベーションセンターは中経連と名古屋市さんだっただと思うのですが、今、愛知県であったり、民間であったり、国もやるのでしようが、色んなところがあるので、そもそも、連携をどう描いていってやるのかなと。それぞれが同じようなことをやっても仕方ないので、そのあたりの役割分担をどう整理されているかが気になります。

全体的に言うと、カタカナが多いというか、固いというイメージがします。新聞社でいうと見出しになるのですが、全体的に、固いし、カタカナだけで済ますというのは、どうなのかなと思いました。

ウォークアブルをうまく訳すと、歩きたくなるまちと訳すのですかね？そうすると、ちょっとイメージも変わってくるし、より分かりやすくなるのではないかなと思いました。

○奥野座長

ありがとうございました。

三の丸については、前回は発言したかもしれませんが、名古屋城と栄地区の整備が進んでおり、そこには含まれているのが三の丸です。

官庁街としては、震が関に次ぐ広さがあるところで、そこがウォークアブルなまちにならないか、ということで問題提起しようということが動機です。中日新聞社にもずいぶんご協力をいただきました。

期成会として問題意識は持っておりますが、名古屋都市センターの方でも、にぎわいあるまちづくり、南海トラフのリスクにどう対処するかという観点から三の丸の役割を整理しており、森川委員を中心にまとめていただいているところです。中部地整にも関心を持って取り組んでいただいています。

今後、三の丸地区の再整備が始まりますが、それにあたっては、三の丸を賑わいのあるまちにする、ウォークアブルなまちにする、そういった提案を期待して、要求水準や実施方針が作られているところです。

将来に渡って、あの地区にどこにどういう建物を作るか、どういう機能を持たせるかは今後の議論になりますが、今、名古屋市で整理している課題等をベースにして、行政でも議論が進んでいけばと、我々も期待しているところです。

それでは、森川委員お願いします。

○森川委員

まず、目指すべき将来像のまとめ方ですが、QOLの向上は結構ですが、その次はネットワークとありますが、ネットワークが将来像なのかなと、ちょっとこのまとめ方には疑問があります。

こういう時によくあるまとめ方は3本柱で、快適性、安心・安全、環境の3本柱だったり、安心・安全、快適性、経済等でまとめられます。今回は、行政らしい、そういったものでまとめずに、QOLの向上とネットワークというのはちょっとびっくりしました。

ありがちな3本柱よりも、これは中部圏という非常に広域な国交省の将来ビジョンなので、もう少し違うまとめ方ができるのではないかなと思いました。

同じ3本柱でも、こんなものはどうでしょう。

1つは、中部地方に住んでいる人がうれしいこと、これはQOLの向上ということで良いと思います。

2つ目は、この中部がまんなかビジョンと言っているように、日本のまんなかであり、そして、経済を引っ張っています。前回、私は日本のハートランドという言葉を使いましたが、日本の中での役割、真ん中としての役割のビジョンですね。

3つ目は、世界の中の中部圏としての役割のビジョンを書く。そんなまとめ方もできるのではないかと思います。

具体的に、1つ目はQOLの向上ということで良いと思いますが、QOLの中には、食べていけないといけないので、地域経済のことも入れるべきではないかと思います。

また、防災の中でも、地域の中だけの話だと、特に最近激しくなっている災害という話になるのかなと思います。

2つ目の、中部地方が日本のまんなかであるというところのビジョンとしては、特に、陸上交通ネットワークがここに全部終結して、いわゆる要になっているので、これを絶対壊してはいけないというネットワークの防災性ということが1つあると思います。

もう1つ大きなことは、首都圏のバックアップですね。首都圏はいつ何が起きるかわからないので、その時にもし首都機能がマヒした時に、中部地方がいの一にバックアップとして動き出すのだというようなところ。

それから、日本の経済を中部地方が支えているということで、この経済をこのまま支え続けるのだというためのインフラ整備ですね。その中には、先ほど朽木委員からもありましたように、先進モビリティをどんどん取り入れていくのだということで、地域の課題解決と産業の活性化という一石二鳥をやっていく、そんなことが入ってくるのかなと思います。

3つ目の、世界の中の貢献するビジョンとしては、1つはカーボンニュートラルですね。これは入るべきです。

それから、サプライチェーンが世界中に広がっているということで、特にこの地域は世界のものづくりの1つの大きなノードになっているということで、世界の中に広がるサプライチェーンがきちんと機能する、もっと大きな話をする、今、東日本はお隣の大国が世界の中でも難しい位置にありますが、いつ何が起きるかわからない中での、世界のネットワークのノードを東京、大阪だけではなく、中部もちゃんと果たすのだという意味で、名古屋港やセントレアの2本目滑走路等、世界の中のネットワークのノードをきちんと守るというような話があるのだと思います。

もう少し世界に広がる話として、国交省が関係しているのは海洋汚染の話です。プラゴミの話もありますし、閉鎖性水域を2つ抱えていて、海は世界につながっているので、海洋汚染に積極的に取り組んでいくというような話が、世界の貢献としてあると思います。

観光もここに入って、コンシューマーで世界に一番つながっているのは観光なので、中部圏の大きな観光資源を世界にとってもっと魅力的なものにしていくことも、3番目の世界のビジョンにつながると思います。

これは、今までにない観点の整理の仕方としての私なりの一例なので、これにちなさいということではありませんが、今の整理の仕方、QOLとネットワークというのはピンとこないということです。

先ほどもご意見がありましたが、左側にも右側にも同じネットワークという言葉が入っています。また、戸田委員からも、ネットワークはハードのことばかりに偏っているのではないかというお話がありました。

また、右側の具体的プロジェクトとしては、さきほどの整理の仕方を採用するなら、それなりに位置づけられると思うのですが、抜けているものとして、1つは、先進モビリティの話が抜けています。具

体的な取り組みが中部地整としてないということかもしれませんが、5月に中部経済連合会と、中部先進モビリティ実装プラットフォーム（CAMIP）という活動を立ち上げました。国交省さんにも、お声がかかっているかと思いますが、ここを中心に、中経連、中部地整と一緒に、この先進モビリティを実装していこうというような動きが立ち上がったところです。

三の丸については、防災ですね、先ほどの東京のバックアップという機能と観光、地域の賑わいというところの3つぐらいの効果があるのかなと思いますので、これも、具体的なプロジェクトとして、是非、中部地整も関わってやっていくプロジェクトじゃないかなと思います。

○奥野座長

ありがとうございます。本日はご欠席ですが、加藤委員と土方委員から事前にご意見が届いているので、それをご紹介します。

○事務局（加納事業調整官）

加藤委員の意見

1. 第1回意見を踏まえた将来像に向けた目指すべき方向性

- ・将来像に向けた目指すべき方向性のQOLの向上は、重要な観点だと思うが、防災の観点が抜けていると思う。
- ・人を惹き付けて選ばれる地域や魅力を感じることができる地域のベースとなるのは、安全で安心できる地域があって成り立つもの。
- ・その上で、女性も男性も、若者も高齢者も、お金持ちもそうでない人も、取りこぼしのない社会がベースとなって、そのような地域が人を惹きつける地域になる。
- ・ネットワークにある「高度な都市機能」とは何か。スマートシティは誰もが幸せになるとは限らない。勝ち組だけが勝つように感じる。
- ・例えば、セキュリティーを万全にして交通事故がゼロになり、そこに行けば子どもが安全に暮らせると言うことが、高度な都市機能であるのであれば良いし、混んでいる方の信号が青になる様なものが高度な都市機能かと言われるとそうではないと思う。
- ・「高度な都市機能」という表現では不十分に感じる。

2. 将来像の実現に向けて

- ・分野立てについては良いと思うが、全体のベースとなる地域デザインが必要であり、「中部圏はこんな良い地域」といった、地域のあり方のワンフレーズを準備して、それを土台として、防災やスタートアップなどの分野を立てていかないとぶれてしまうと思う。
- ・ベースとなるキーワードは、目指すべき将来像のエッセンスで、長期的に見てどういう状態を目指すのか、強靱な国土のデザインはこうあるべきという具体的なフレーズを書かなければならない。そうでないと、また、はやりごとを書いているんだと思われてしまう。

土方委員の意見

1. 第1回意見を踏まえた将来像に向けた目指すべき方向性

- ・中部圏の目指すべき方向性については、良いと思う。
- ・中部圏はトヨタを中心に製造業が強く、製造業は設備産業であることから新規参入が難しく、代々、後を継いだ人たちは、儲かるし、良い生活ができるから、何も変える必要はないし、新しさを求めることもない。だから名古屋は、面白くもないし魅力的にはならない。

- ・人を惹きつける魅力ある地域をつくるには、新しいことにチャレンジしていこうと思う 30~40 代の若い世代から、今の新しい考え方を発信してもらって、名古屋を盛り上げると良いと思う。
- ・情報発信方法をとっても、私たちはテレビ世代だけど、今の子供たちは YouTube など、時代も大きく変わっている。その世代も地域づくりに取り入れないと、魅力的なまちづくりにつながらない。
- ・アメリカのブルックリンでも、若いアーティストが活躍して、古くさびれた倉庫街を都市開発して、一躍、高級住宅街になるなど、すごくおしゃれで、人が集まる場所になっている。そういうところには、若い人たちが関わっている。そういう若い人や感度の高い人たちを使いながら、まちをつくっていくと、良いまちが出来ると思う。

2. 将来像の実現について

- ・将来像を実現するために、連携して進めていくことは大切なことで、良いと思う。
- ・今回の検討会では、将来像に向けた目指すべき方向性をとりまとめることだが、具体的に地域づくりを進めていく段階では、それぞれの分野のプロや若い人の意見を取り入れることや、日本や世界ではいろんな成功事例があると思うので、見たり、体験して、反映させるといい。
- ・それと、将来像に向けて、どういう予算をつけて、具体的に何を变えていこうとしているかまでやらないといけないと思う。予算だけ適当に決めて一人の人がやっているようでは、絶対にいいものではない。
- ・例えば、ビジョンの方向性に「女性、若者等が活躍・共生できる地域」とあるが、この方向性に関連のある人、女性目線であれば、女性の経営者でもいいし、若い人も代表で入れてもいい、外国人向けに思うのであれば、外国人も入れた方がよい。この人選で全てが決まると思う。そこを間違えると間違った方向になってしまうので、そこは、すごく大事だから、人選に力を入れてほしい。
- ・私たち世代は、若い人達の意見をもっと理解してあげないといけない。すごく敏感にとがった感性を持っているから、それを私たちが受け入れる準備をしなきゃいけない。初めは、何を言っているかわからなくて、こんなどこがいいの、と思うかもしれないけども、それが、なるほど！と理解できるまで私たちが努力しないとけない。私たちも良い経験をしているので、どうしてもいけないところはアドバイスや助言をしながら進んで行く、すごくいいシステムができると思う。

○奥野委員

ありがとうございました。

私の印象ですが、前回の議論を整理していただいた資料 2-1 と、今日の皆様のご発言で、大体ビジョンの形ができていると思います。今後、整理をどうしていくかが大変だと思いますが、その、軸やポイントはいくつかあると思いますので、どれをどういう形で軸にしていくかはこれから議論していかないとけません。

さきほど、山田委員から、どこの圏域でも同じになってくるのではないかという話がありましたが、そうならないための一番大事な軸は、国土計画としても中部圏のビジョンは、この圏域は先ほどの中経連の報告とも関連するのですが、ものづくりにおける世界の中核圏域なのだという将来像だと思います。これは、是非とも打ち出していきたいと思います。

また、多様な人材が世界から集まる圏域、これほどどこでも求めていると思いますが、とても重要なポイントだと思います。

特に、ものづくりにおける世界の中核圏域、これは、政府の方でもこれから第 3 次国土形成計画の議

論を始めます。多分、中部圏も5～6行の特徴の記述が出てくるとと思いますが、そういうところに積極的に訴えていくことだと思っています。

先程、住んでよし、訪れてよし、働いてよし、という話がありましたが、私はもう1つ、学んでよしというものがあるといいなと思います。大学教員なので、まちづくりを議論する時に常に頭にあるのは、名古屋に来れば頭脳があると言われるようになることだと思っています。

世界運輸会議をやった時に、オーストリアのリンツの話聞いて、特に思ったのですが、名古屋に来れば頭脳があると言われるようになるといいと思います。

その他のポイントとして、私が地域づくりについていつも言っていることですが、国際的に活用される大都市圏です。これは、どういう風に整理するかですけどね。

もう1つは、ビジネスが効率的に行われる圏域、それから、高齢者に優しく子供が生まれ、育まれる圏域、また、自然が豊かで環境に優しい圏域、それから、歴史・文化・芸術にあふれる圏域、安全・安心な圏域、こういうところに頭を置きながら、整理をしているところです。

今日のご発言、前回の議事録は非常におもしろい内容でした。これらを、これからどう整理して盛り付けていくかが、今後の大きな作業になっていくと思います。

何が軸になるかということ、しっかりと事務局の中でも議論していただいて、定義していただければいいと思います。

今日のところは一旦整理していただいて、それを元に議論した方がいいかと思います。

事務局から全体を通して何かリプライがあればお願いします。

○司会（林企画部長）

本日も貴重なご意見をありがとうございました。

結構、抜けている観点がございまして、そのあたりについて、しっかり補足させていただきます。大きな軸というか、中部圏の特徴とか強みといった前提となる部分が抜けていましたので、そこについて整理させていただいた上で、将来像につながる形になるように整理をしていきたいと思っています。

まずQOLを向上させるような、個性のある個々のまちづくり、地域づくりを進めて行くことがベースにあって、その中で、個性をとがらせると足りないところもまた出てきます。そこを補完していくための地域間の連携ということネットワークという言葉にしましたが、しっかりと議論していきたいと思っています。

森川委員から、QOLという部分に加えて、ネットワークというか、ハートランド、世界の中心みたいなところのお話がありましたけれども、中部の特色みたいなものを整理する中で、これを前提として、どうしていくかを議論させていただいて、今までの国交省、中部地整の整理の仕方とは違うものになるかもしれませんが、先生方のご意見を踏まえた新しい提言、方向性みたいなものを打ち出していきたいと思っています。また、整理をさせていただき、ご相談をさせていただきたいと思っています。

新しいものを打ち出す上で、将来像の実現に向けて実効性があるものにしていく、単なる書いたもので終わらせることがないように、具体的に実現するためにどう進めて行くのが重要だと思います。

今、代表プロジェクトを書かせていただいています、選択と集中みたいな形で、色んなものを総花的にやっていきますという形ではなくて、どこかにフォーカスして、そこを強化していくことが必要だと思っています。今書いてあるようなことを中心にしながら、選択と集中をして、地域全体で連携していく、そんな形の取り組みが良いのかなと思っています。

そのあたりについてご意見があればお伺いさせていただければと思います。

○奥野委員

ありがとうございました。お気づきの点がありましたら、事務局に個別にお願いできればと思います。それでは、今後の予定について、事務局から説明をお願いします。

(4) その他

○事務局（加納事業調整官）

・資料4 説明

○奥野委員

ありがとうございました。引き続きご意見いただけますよう、よろしくお願いいたします。

本日の議題は以上にさせていただきます。ありがとうございました。あとは、事務局にお返しさせていただきます。

3. 閉会

○司会（林企画部長）

ありがとうございました。

本日は多くの貴重な意見をいただき、大変ありがとうございました。本日の議事録につきましては、各委員に確認させていただき、中部地方整備局のHPに掲載させていただきます。

以上をもって、第2回の検討会を終了させていただきます。長時間にわたりありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

以上